

平成 14 年度

前橋市自然環境調査（植物調査）

概要版



前 橋 市



前橋市自然環境調査の目的

本調査は、前橋市の自然環境の現況を調査・把握し、良好な自然環境の保全および残された自然の保全等の基礎的データを収集し、過去に実施された調査との比較を行うことによって、「前橋市環境基本計画」に示す環境像「多様な生態系が維持され、市民に潤いと安らぎを与える自然環境が守られ、はぐくまれるまち」、および「市民、事業者が主体的に環境保全活動に参加するまち」を推進することを目的としています。

前橋市では、平成 10 年度に動物（鳥類・哺乳類・は虫類・両生類・昆虫類）、植物（植物相・植生）の基礎調査を実施しており、平成 14 年度は植物調査のモニタリングを実施しました。

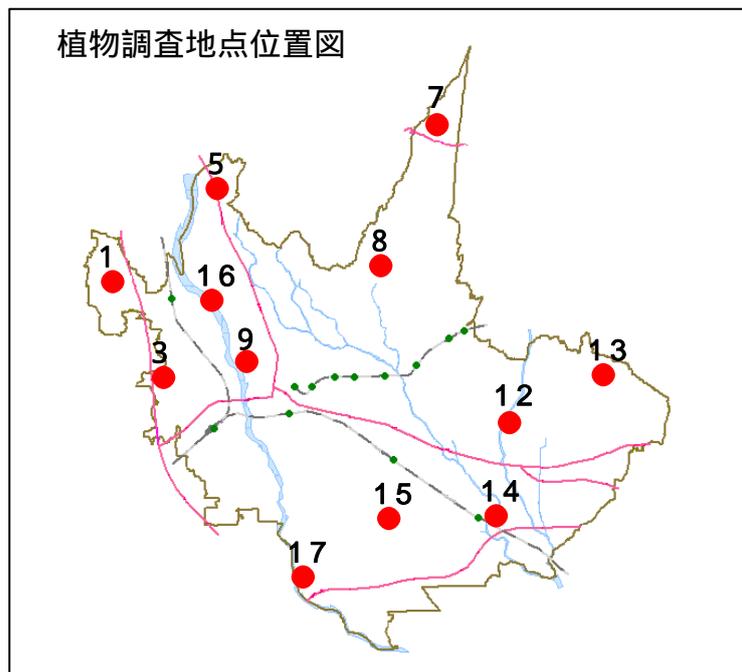


調査の概要

本調査は、前橋市による調査と市民による調査で実施しました。調査の内容、期間等の概要は、以下のとおりです。

| 調査内容 | 実施者 | 調査実施日 | | 調査地点 |
|-------------------------|-----|-------|------------------------------|------------------------|
| | | 季節 | 調査実施日 | |
| 植物相・植生 及び 注目種確認調査 | 前橋市 | 夏季 | 平成 14 年 8 月 26 日～ 8 月 30 日 | 基礎調査を 実施した 12 地点 |
| | | 秋季 | 平成 14 年 10 月 30 日～ 10 月 31 日 | |
| | | 春季 | 平成 15 年 3 月 4 日、 3 月 13 日 | |
| 秋の七草調査 | 市民 | 秋季 | 平成 14 年 10 月 1 日～ 10 月 31 日 | |
| 春の七草調査 | 市民 | 春季 | 平成 15 年 2 月 15 日～ 2 月 28 日 | 市内全域 |

植物調査地点位置図



| 地区 | 地点 | 調査地点の概要 |
|----------|----|---|
| 清里・総社 | 1 | 前橋市の北西境を南北に流れる八幡川沿いの田園地域。河川とそれを挟む水田、畑地が多い。住宅はまばら。樹林は少ないが河畔林と八幡神社のスギ植林がある。 |
| 元総社・東 | 3 | 前橋市の西境を流れる染谷川沿い。河川、畑地、水田があるが、市街化が進み住宅地が増えている。 |
| 南橋 | 5 | 中子池～ホタル水路を有する里山地域。周辺は水田であるが休耕中のものもある。橋山にはスギ、アカマツ、コナラの林のほか、環境省の特定植物群落に指定されているアラカシ林がある。 |
| 芳賀 | 7 | 嶺公園。コナラ・クリ林とアカマツ林が大部分を占めるが、大堤沼から流れ出す水路沿いの湿地には、ミズバショウやリュウキンカなど湿地性の植物もみられる。 |
| | 8 | 藤沢川を中心に、芳賀団地等の市街地と畑地。河川が護岸されているため、河畔林はごく小規模である。 |
| 本庁 | 9 | 群馬県庁舎及び前橋市庁舎周辺の市街地。植え込みや公園がある。利根川河川敷には河畔林がみられる。 |
| 桂萱・永明・城南 | 12 | 荒砥川沿いの水田地帯。周辺は水田が主であるが、エダマメ畑として利用されているものも多い。 |
| | 13 | 大室公園、乾谷沼を含む、水田、畑地の多い田園地帯。大室公園内にはアカマツ林があるが、コナラやクマシデなどもみられる。乾谷沼には水生植物群落がある。 |
| | 14 | 桃ノ木川沿いの水田、畑地、住宅の入り交じる田園地帯。北関東自動車道が開通している。 |
| 上川淵・下川淵 | 15 | 八幡山公園から広瀬川沿いの住宅地。八幡山公園の古墳はアカマツ林。住宅地にある果樹園の林床には畑地雑草がみられた。 |
| 利根川 | 16 | 敷島公園とその周辺部。敷島公園内は主にアカマツ林である。利根川の河川敷はヨシ、オギ等からなる草地のほかカワヤナギ、タチヤナギなどで構成される河畔林がみられる。 |
| | 17 | 下川団地周辺。団地内は住宅地で、野生植物は少なかった。利根川の段丘沿いにはニセアカシアを主体とする河畔林が帯状に見られた。北関東自動車道が開通している。 |



写真
稲刈りあとの田んぼ(元総社・東地区)

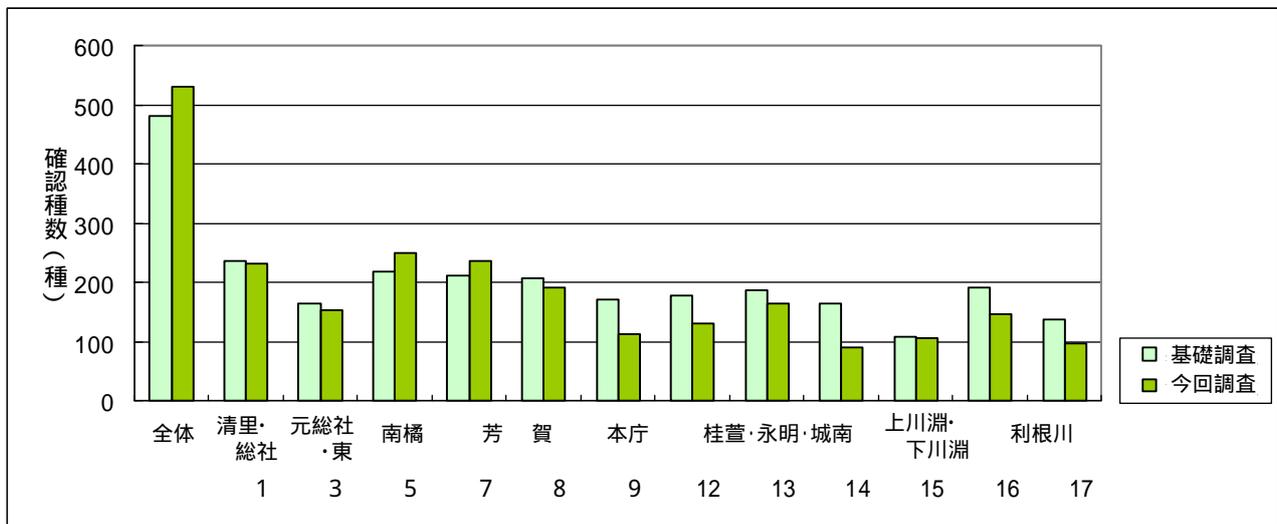
調査の結果



植物相

今回の調査では 108 科 531 種の植物が確認されました。平成 10 年度の基礎調査（108 科 480 種）と比較すると、総数では増加していました。しかし、地点ごとにみると、市の北部（南橋地区、芳賀地区等）では増加あるいは前回とほぼ同数確認されているのに対し、市の南部（本庁地区、桂萱・永明・城南地区等）では総じて減少していました。

このことは、市の南部で道路整備や市街化が進み、水田や畑地、河川の土手など植物の良好な生育環境が少なくなっていることが関係していると考えられます。



植生

前橋市の植生（植物群落）は、里山を構成する落葉広葉樹林やアカマツ林、社寺に多いスギ・ヒノキ林、水田やため池、畑地、果樹園など農地に近い場所の植物群落が多くみられました。また、利根川をはじめとする河川周辺には、ヨシやオギからなる高茎草地やニセアカシアなどからなる河畔林がみられました。

基礎調査と比べて、植生（植物群落）の種類に変化はほとんどありませんでしたが、里山ではアカマツが枯れて林の様子が変わり、平地で水田や畑地が宅地が変わったため、昔ながらの農村景観が徐々に少なくなっています。



写真
藤沢川沿いの植生（芳賀地区）



注目すべき植物種

今回の調査で、前橋市で注目すべき植物種は11種確認されました。

これらの種は、「群馬県の絶滅のおそれのある野生植物」などに該当する希少種です。今回、確認した地点は、市の北部や公園、ため池などでした。これらが希少となった背景には、開発による環境の変化、里山の管理方法、水辺環境の変化などによって、植物の生育できる環境がだんだん少なくなったことが考えられます。



写真
ミゾコウジュ (桂萱・永明・城南地区)

| 科名・種名 | | 地点・地区 | 出典 |
|--------|-----------|-------|--------|
| ヤドリギ | マツグミ | | 地 |
| ドクダミ | ハンゲショウ | | * |
| シソ | ミゾコウジュ | | NT、 |
| オモダカ | サジオモダカ | | |
| | アギナシ | | NT、* |
| ユリ | ヤマユリ | | 地 |
| | アマナ | | *、地 |
| カヤツリグサ | コツブヌマハリイ | | VU |
| ミクリ | ミクリ | | NT、* |
| ラン | キンラン | | VU、*、地 |
| | ササバギンラン | | 地 |
| | サイハイラン | | NT、 |
| | オオバノトンボソウ | | 地 |

出典

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」(2000年、環境庁)

NT: 準絶滅危惧種 VU: 絶滅危惧 II 類

「群馬県の絶滅のおそれのある野生植物のリスト」(群馬県ホームページ)

*: 群馬県絶滅危惧 類 : 群馬県準絶滅危惧種 : 群馬県情報不足

その他

地: 基礎調査で地域的な注目すべき植物種とした種



秋の七草・春の七草を知っていますか？

- 市民が参加して秋の七草・春の七草の調査を実施しました -

秋の七草、春の七草とよばれる草をご存知ですか。古くから、鑑賞や食用をとおして季節を感じさせる植物として親しまれてきた草たちです。これらの草が、前橋市で今どのくらいあるのか、どんなところにあるのかを調べてみました。

秋の七草

秋の七草は「萩の花（ヤマハギ） 尾花（ススキ） 葛花（クズ） 撫子（カワラナデシコ） 女郎花（オミナエシ） また 藤袴（フジバカマ） 朝貌（キキョウ）の花」と、万葉の歌人 山上憶良に詠まれたほどの花の美しい草たちです。

今回の調査では、ススキ、ヤマハギ、クズはみつかりましたが、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウはみつきませんでした。

実は、これらの種はいま全国的に少なくなっている植物種たちなのです。その原因はいろいろ挙げられますが、いずれも明るい環境を好む植物であることから、河原やススキ草地で人間による草刈りがなされなくなったためであるという説もあります。自然と人間との共生の姿がこんなところにもあるのです。

秋の七草の確認地点

| 地区・地点 種名 | 元総社・東 | 芳賀 | | 本庁 | 桂萱・永明・城南 | | 上川淵・下川淵 | 利根川 | 確認地点数 |
|-------------|-------|----|---|----|----------|----|---------|-----|-------|
| | 3 | 7 | 8 | 9 | 12 | 14 | 15 | 16 | |
| ヤマハギ | - | | - | - | - | - | - | - | 1 |
| ススキ | | | | | - | - | | | 6 |
| クズ | | | | | - | | | | 7 |

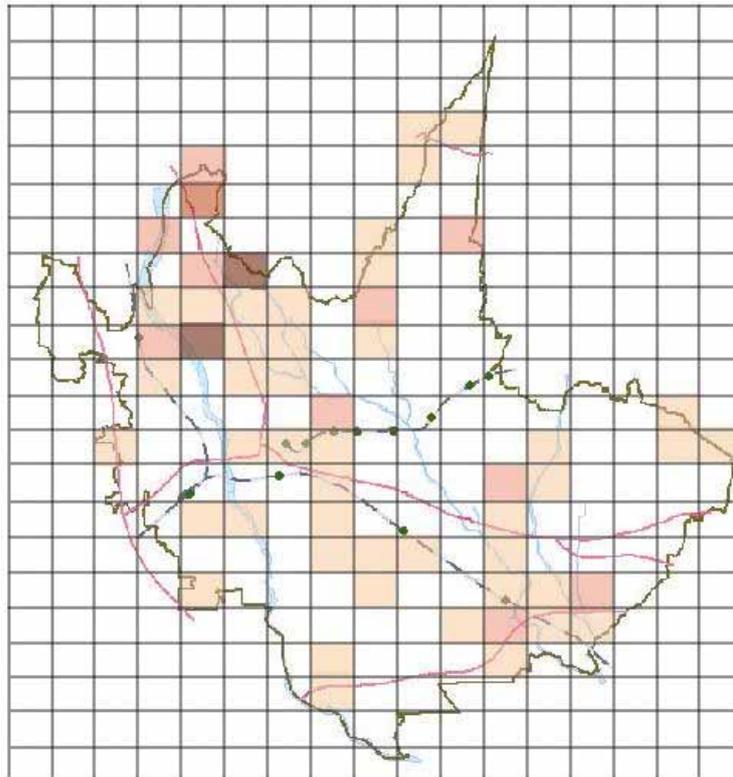
春の七草

「セリ、ナズナ、ハハコグサ（オギョウ） ハコベ、コオニタビラコ（ホトケノザ） スズナ、スズシロ」の七草ですが、お正月の「七草粥」に入れて食べることで有名です。お正月料理を食べ過ぎた後のおなか休めにしたともいわれています。今回は、スズナ（かぶ） スズシロ（だいこん）を除く5種類を調査しました。



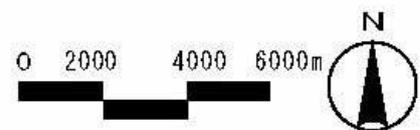
ハハコグサ（芳賀地区）

今回の調査では、ナズナ、ハハコグサ、ハコベは、里山から市街地まで、たくさんの地点で見つかりました。一方、湿地を好むセリとコオニタビラコは、確認された地点が少なくなっていました。これは、水田や湿地の環境が徐々に少なくなっているためと考えられます。



セリ（芳賀地区）

確認地点数



セリの確認状況

調査参加者の声 ご参加ありがとうございました

40年前頃には利根川原でカワラナデシコが咲いていましたが、今回は見つかりませんでした。子供の頃を思い出して、春の七草はどこにも沢山あると予想して歩きましたが「ナズナ」ばかり。水路は三面コンクリートやU字管できれいに整備され、雑草はなし。「セリ」も見当たらず、橘山へ登る途中、沢筋らしき所にほんの少しセリがあって驚きました。

普段通る散歩コースですがいつも水鳥や川の流れなどわりと目が遠くに向いていたのだと気づきました。今回は足もとをつくづく眺めたので。日を変えてみると目立たなかった花が咲いていたりして楽しみでした。

桃ノ木川が整備されてから植物も変わりました。セリはほとんど見られなくなりました。しかし畦道をよく見てみると、まだまだ色々な草がはえていて、いつかは住宅地になってしまうのかと思うと少しさみしい気がします。



前橋市生活環境部環境課

〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12番1号
TEL : 027-890-6292 (直通)



古紙配合率70%再生紙を使用しています